



藤沢ベテル伝道所の記憶

愛川伝道所牧師
北口沙弥香
(第65回卒)

私は2015年に卒業し、横浜の寿地区の中にあるなか伝道所の担任教師として赴任しました。そのときから「重度訪問介護」の訪問介助ヘルパーとして身体障害をお持ちの方の生活のお手伝いをする仕事をしながら、教会の奉仕をしています。2022年5月から愛川伝道所の主任担任教師となりました。今も賃金労働を続けながら教会の奉仕を続けています。

なか伝道所は私がいる間に主任が変わりさまざまなことがあり、3年目でそこを離れることになりました。神学校の人事には相談しましたがどうもいかず、しばらく無任所になるのもいいと思っていた矢先、出席していた神奈川教区の社会福祉小委員会の委員のみなさんが「飯塚先生、どうかしてください」と言ってくださり、飯塚光喜牧師も「うち、謝儀は用意できないけれどそれでいいなら」ということで、2018年度から藤沢ベテル伝道所に担任教師として、おいてもらえることになりました。

藤沢ベテル伝道所は藤沢市の善行にあった小さな教会でした。会員は8名ほどでしたが遠方だったりご事情があったりして来られない方が多く、今日は主任と自分だけの礼拝だったということもありました。

主任の飯塚光喜牧師は全盲の牧師でした。大学を卒業してから医薬品工場に就職したそうですが、入ったばかりの頃にドラム缶いっぱいの水酸化ナトリウムをかぶってしまい、命はとりとめたものの

失明してしまいました。障害者にとって昔は今よりもずっと風当たりが強かったというのは想像に難しくありません。「なんで助かったんだ」ということを父親から言われ、それを言った父親が後悔したのか家じゅうの刃物を隠したなんていう話を聞いたこともありました。目が見えなくなって何がつかったかといえば「働けない者とみなされるようになったこと」と漏らすこともありました。

飯塚牧師は何よりも十字架にかけられ、人々から捨てられたイエスのことを大切にする人でした。イエスが絶命されたときの「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになったのですか」という叫びが、自分のために叫ばれたものであるということに大事にしていたのでした。

不思議なことに目が見えず苦勞している牧師のもとに、世にあって苦勞している人たちが招かれるようになりました。ほかの教会で受け入れられず、遠く九州の人を会員として迎え入れるということもありました。視力を失い「捨てられた」経験をした牧師は、同じように捨てられた経験を持つ人を受け入れたのです。

その教会も昨年3月に飯塚牧師が天に召されたことで終わりを迎えました。93歳そのときまで生涯現役でありました。昨年の7月に解散総会があり、教会としての歩みは終わりました。

藤沢ベテル伝道所は神奈川教区でもっとも小さな教会のひとつでした。小さくて礼拝とささやかな集会以外のことは何もできない教会でした。ただ、その小さな教会にさまざまな関心ごとが寄せられます。教会に社会問題を持ち込むなという意見もあるでしょうが、ただ存在するだけで社会問題と向き合うことになる、そんな教会でした。そんな教会がこの世に存在したことは意味があったのだと信じています。藤沢ベテル伝道所は解散し、地上の歩みを終えましたけれど、このような教会が存在したことを覚えておいていただけたら幸いです。



飯塚光喜牧師（中央）と、藤沢ベテル伝道所にて

華嚴院お寺でマルシェ

農伝では毎晩6時にお寺の鐘が聞こえてきます。その華嚴院「お寺でマルシェ」に農伝産ルバーブジャムなどを並べ、出店しました。当日9月23日はお墓参りの方々と本堂での「彼岸供養会（ひがんくようえ）」で、ご住職と「般若心経」をお唱えし、マルシェが始まりました。続いてマンドリン、福富さんと福田さんの狂言講座（写真）、鼓楽衆“呑”の和太鼓を楽しみました。演奏が聴こえる境内では、森のキッチンさんの「ブルーシールアイス」、移動カフェ green さんの「薬膳粥」と、けごんいん「瑠璃光球」を味わいつつ、地域の皆さん「おばあちゃんの宝箱」、手編み「MOYAI」、グラスアートの方々と交流しました。華嚴院は江戸時代の絵地図にも描かれ、その起源を天平年間にさかのぼる古刹。農伝生のアルバイトを喜んでくださり、「春蚕供養」など小野路地域の養蚕も護られています。 長谷川りゑ子



(後援会実務委員)

**鶴川教会
オープンチャーチ**

10月9日、ミニバザーとカフェそして和太鼓の演奏とにぎやかでした。



まちだ里のマルシェ

11月18日、消臭・空気中の汚れや湿気を吸収する農伝竹炭が好評！



生田教会ミニバザー

11月23日（木・休）、生田教会でミニバザーが開催され、農伝後援会からも支援品を販売させていただきました。お馴染みの農伝クリスマス・ハガキ、布製ブックカバーのほか、今回は農場ボランティアの皆さんが焼いてくださった「農伝竹炭」を初めて販売しました。ウォーター・サーバーに汲み置きした水道水に竹炭を入れて試飲していただくと、「水が変わった！ 美味し〜い！」と好評でした。お買い物をしてくださった教会員の方から、農伝ボランティアに行ってみたいとお申し出をいただいたことに感謝しています。バザーに出店されていた地域の福祉団体の方々との交流もうれしく、恵み豊かな一日となりました。ことをご報告いたします。



斎藤純子（後援会実務委員）

鶴川北教会つるきたフェスタ

11月25日（土）、4年ぶりのつるきたフェスタ開催でした。寒空の下、屋外には、赤い屋根、もくもくてん、共働学舎、こどものよりどころログログ、近隣農家さん、そして農村伝道神学校後援会と地域の店舗がイベントに色付けします。鶴川北教会礼拝堂ではバザー販売、午後イベントのゴスペル入門（写真）では、指導者の愉快的リードの中、ゴスペルに親しむ楽しそうな顔がありました。後援会のグッズは、綺麗な色彩のクリスマス用はがきを買い求める方が多くいました。地域との繋がりを考えたとき、このようなイベントは大切な働きの一つでしょう。農伝のためにとグッズを求められる方もおり、いろいろな方に支えられている農伝であることを思わされたイベントでした。



池田昌功（3年生）

バザーで農伝を紹介！！

田園江田教会 えだ教会まつり（写真左）

11月3日、農伝秋のハガキ・クリスマスカード・みどりファミリーハガキを販売。農伝支援ハガキ一覧パネルを製作しました。

武蔵野緑教会 アドベントバザー（写真右）

11月23日、農伝支援ジャムと手作りブックカバーを販売。農伝紹介チラシを掲示しました。



松本吉氏光さん（農場担当）、吉川拓実さん（4年生）が
野尻キャンプ場で大活躍

農村伝道神学校初代校長の信濃村（当時）への貢献を称えた「A.R. ストーン先生の記念碑」が建つ長野県信濃町野尻湖畔。湖を囲む岬のひとつ「琵琶ヶ崎」の東京YWCA野尻キャンプ場で2023年夏、松本吉氏光さんは小学生キャンプのチャプレン、吉川拓実さんはキャンプを支える食事づくりのキッチンヘルパーとして活躍しました。



野尻キャンプ場グリーンチャペル

東京YWCAキャンプディレクター・大久保智子さんからお便りが届きました。「参加者が、夏休みの自由研究で書いた文章を原文のまま、抜粋してお伝えします。『キャンプには、グリーンチャペルがあります。やねのないきょうかいです。ぼくしさんの名前ヨッシーというあだ名です。ヨッシーは、声がとてもきれいです。ヨッシーはお話をしたりみんなに教えたりしています』吉川さんには、調理責任者から『キレッキレにサポートしてくれて、助かりました』というコメントが届いています」吉川さんはキャンプ場に近い信濃村教会に第45回卒の三河豊牧師を訪ね、優しく迎えられたとのこと。



野尻キャンプ場キッチン

W.M. ヴォーリズ設計の教会堂は素晴らしい景色の田園に建っています。第23回卒の島しづ子牧師は信濃町古間（ふるま）で育ち、高校生のときにYWCA中高生キャンプに参加され、受洗を決意したとか。農伝とのつながりが深い信濃町に豊かな森と湖のキャンプ場を訪ねてみませんか。地域にルバブ栽培を伝えた宣教師たちの国際村も「象の小径」で迎えます。第68回卒の川浦弥生牧師も小学生キャンプのチャプレンなど協力され、第34回卒の飯塚拓也牧師は竜ヶ崎教会こどもキャンプで毎年、野尻キャンプ場を利用されています。長谷川りゑ子（後援会実務委員）

卒業生は **いま！！**

島村教会にいます

島村教会牧師
清水信浩
(第53回卒)



2018年より、群馬県の島村教会牧師と、併設された島村めぐみ保育園の園長として、福音伝道の働きを務めさせていただいています。また、今年度より神学校同窓会長もお引き受けすることとなりました。後援会の皆様にも、お祈りに覚えていただければ幸いです。さて、島村教会は文字通り村の教会としてこの地で137年の長きにわたり、福音伝道の拠点として立ち続けて参りました。そんな島村教会に来て驚いたのは農村伝道神学校との関係の深さです。農伝創立後、多くの先輩方が島村教会で夏期伝道実習や副牧師として仕えられ、教会の歴史に深く関わっておられたことです。このことは、島村教会の教会員の方々もよく記憶されていて、たくさんの先輩方のお名前が上がり、懐かしい思い出を聞かせていただきました。島村は昔から変わることなく、埼玉県に囲まれた群馬の飛び地です。懐かしい風景も変わらず残っていると思います。近くには、世界遺産の田島弥平旧宅もあります。ぜひ一度、お越しください。

2023度 農村伝道神学校後援会会計報告

2023年9月16日～2024年1月15日（ ）内の数字は回数で、金額はその合計です。

後援献金（団体）		大野教会 3,000	代田教会 3,000	日本基督教団東京教区南	松山教会 5,000	秋山 宣子 3,000
愛隣教会 5,000	岡山教会 20,000	田浦教会 10,000	支区婦人委員会 10,000	箕面教会 10,000	秋山 道子 5,000	浅野 直人 10,000
秋南教会 20,000	上星川教会 10,000	鶴川教会 30,000	日本基督教団三重地区	合計28件	足立 守 30,000	足立こずえ 3,000
伊勢原教会 5,000	上山教会 3,000	東洋英和女学院 30,000	鶴川教会 5,000	金額 262,500	荒井 眞理 28,130	荒井 庸子 2,000
市川三本松教会 10,000	久ヶ原教会 5,000	利別教会 5,000	半田教会 5,000	後援献金（個人）	赤松 礼子 3,590	伊賀イツ子 2,406
市川東教会 4,000	小諸教会 15,000	日本基督教団千葉教区	日野台教会 2,500			
牛久教会 10,000	三・一教会 10,000	千葉支区婦人部 10,000	広島南部教会 5,000			
	山谷兄弟の家伝道所		本郷中央教会 2,000			

Table listing donors and their contribution amounts, organized in columns. Includes categories like '記念日他献金(個人)' and 'ひとつぶ献金'.

事務局だより 850万円の支援まであと一歩の応援よろしくお願ひします。本年は全国各地で「農伝支援ジャム」が販売され、支援の新しい輪が広がった年でもありました。島しづ子後援会長も新しい支援ハガキを送ってきてくださいます。3月にまぶね教会で今年も開催される支援コンサートは、支援して下さる皆様と神学生たちが出会い、言葉を交し合う良い機会となりつつあります。顔と顔が見える関係の中で、将来の教会現場を担っていく神学生が育っていくことはとても意味深いことだと思います。(小海 基)

農村伝道神学校支援コンサート 2024年3月2日(土)13時の回/15時の回 入場無料(申込不要)オール・パツハ・プログラム 会場 まぶね教会(神奈川県川崎市麻生区)お近くの方にお声かけください。チラシをお送りいたします。

2023年度後援会会計報告

2023年4月1日～2023年12月31日現在

Table with financial data for 2023 fiscal year. Columns include '収入(献金・他)', '前年同期比(%)', and '発行' (Issued by).